

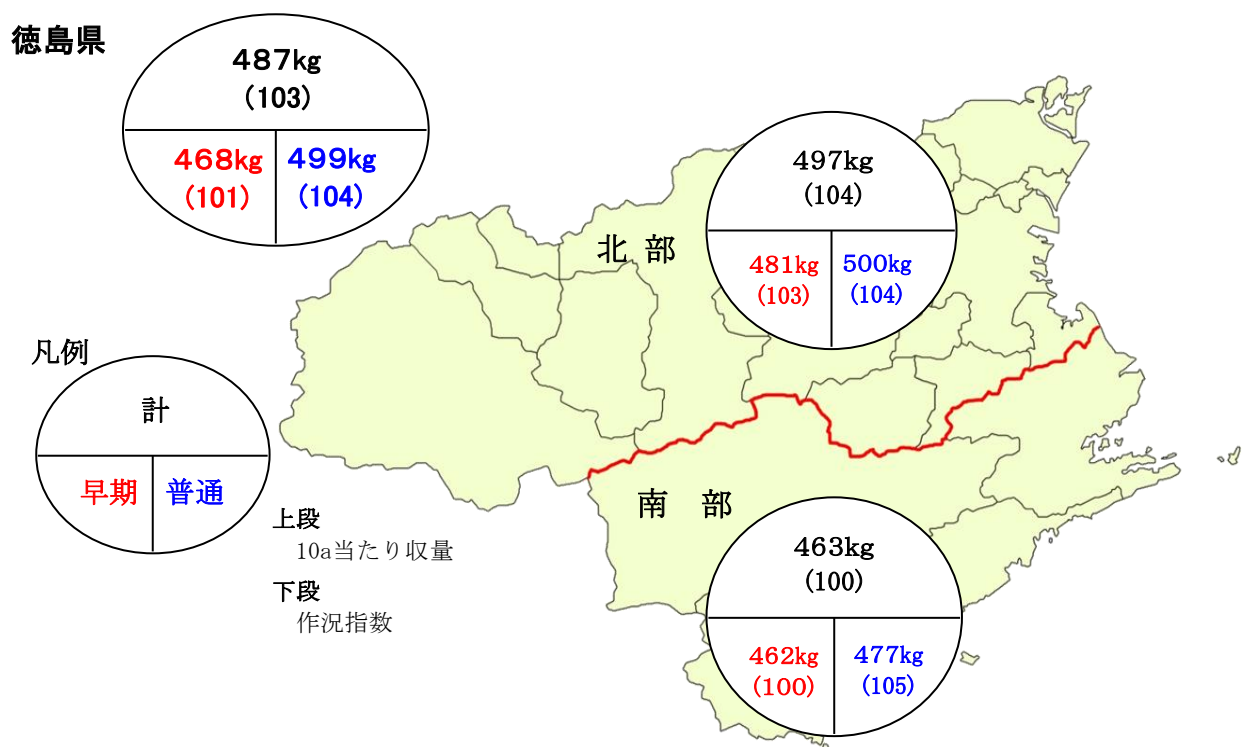
平成25年産 水稻の収穫量（徳島県）

_____ 水稻の10a当たり収量は487kg（作況指数103） _____
 収穫量（子実用）は6万5,300t _____

調査結果の概要

- 徳島県における平成25年産水稻の10a当たり収量は487kg（作況指数103）、収穫量（子実用）は6万5,300tとなりました。
 また、主食用作付面積に10a当たり収量に乗じた収穫量（主食用）は6万3,800tとなりました。
- 作期別にみると、早期栽培の10a当たり収量は468kg（作況指数101）、普通栽培の10a当たり収量は499kg（作況指数104）となりました。

図 地帯別作期別10a当たり収量



- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率をいいます。
- 統計調査における調査目的、調査対象、北部、南部の範囲などは「調査の概要」(P11)に記載しています。

解 説

1 作柄概況

平成25年産水稻の作柄は、田植後の、4月上旬から5月上旬にかけての寒気の流れ込み等や普通栽培における登熟期後半の病虫害の影響が見られたものの、総じて気象に恵まれ推移したことから10a当たり収量は487kg（作況指数103）となりました。

この結果、収穫量（子実用）は6万5,300tとなりました。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は6万3,800tとなりました。

作期別（早期栽培・普通栽培）にみると、以下のとおりです。

(1) 早期栽培

ア 田植後の低温等による分けつの抑制や疎植栽培が進んでいることから、穂数は「少ない」となりました。

イ 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の気温が平年を上回ったことや、穂数が少なかったことの補償作用等により「やや多い」となり、全もみ数は「やや少ない」となりました。

ウ 登熟は、出穂期以降、総じて気象に恵まれて推移したことから、「やや良」となりました。

エ 以上のことから、早期栽培の10a当たり収量は468kg（作況指数101）となりました。

(2) 普通栽培

ア 田植後の気温がおおむね平年を上回ったものの、疎植栽培が進んでいることから、穂数は「平年並み」となりました。

イ 1穂当たりもみ数は、幼穂形成期の気温が平年を上回ったことにより「やや多い」となり、全もみ数は「やや多い」となりました。

ウ 登熟は、出穂期以降、総じて気象に恵まれていたものの病虫害の影響により、「平年並み」となりました。

エ 以上のことから、普通栽培の10a当たり収量は499kg（作況指数104）となりました。

表1 平成25年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	収穫量（子実用）			（参 考）	
	実 数 ①	前年産との比較					実 数 ⑤=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ⑥	収穫量 （主食用） ⑦=②×⑥
		対差	対比					対差	対比		
	ha	ha	%	kg	kg	④=②/③	t	t	%	ha	t
徳 島 県	13,400	200	102	487	474	103	65,300	2,300	104	13,100	63,800
作柄表示地帯別											
北 部	9,450	60	101	497	479	104	47,000	1,600	104
南 部	3,970	140	104	463	461	100	18,400	700	104
作 期 別											
早 期 栽 培	5,290	190	104	468	463	101	24,800	1,100	105
普 通 栽 培	8,130	10	100	499	480	104	40,600	1,200	103

- 注：1 作付面積（子実用）とは、水稻作付面積（青刈り用等面積を含む。）から青刈り用等面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積です。（以下の各表において同じ。）
- 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（子実用）から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積です。（以下の各表において同じ。）
- 3 主食用作付面積及び収穫量（主食用）の内訳を「…」としているのは、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を作柄表示地帯別及び作期別に把握していないためです。
- 4 作柄表示地帯別及び作期別の作付面積（子実用）及び収穫量（子実用）の積み上げ値と徳島県計が一致しないのは四捨五入（P12参照）のためです。

表2 作期別の作付面積及び収穫量

区 分	作 付 面 積 (子 実 用)			10a当たり 収 量	10a当たり 平年収量	作況指数 ④=②/③	収 穫 量 (子 実 用)		
	実 数 ①	前 年 産 と の 比 較					実 数 ⑤=①×②	前 年 産 と の 比 較	
		対 差	対 比					対 差	対 比
早 期 栽 培	ha 5,290	ha 190	% 104	kg 468	kg 463	101	t 24,800	t 1,100	% 105
北 部	1,700	50	103	481	466	103	8,180	460	106
南 部	3,590	140	104	462	462	100	16,600	700	104
普 通 栽 培	8,130	10	100	499	480	104	40,600	1,200	103
北 部	7,750	10	100	500	481	104	38,800	1,000	103
南 部	380	3	101	477	456	105	1,810	110	106

表3 作柄概況

区 分	穂 数 の 多 少	一 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 期				
					始 期	最 盛 期	終 期	最 盛 期 の 比 較	
								対 平 年	対 前 年
(平 年 比 較)					月 日	月 日	月 日		
早 期 栽 培	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	8. 12	8. 20	8. 30	2日早い	3日早い
北 部	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良	8. 14	8. 23	8. 31	2日早い	3日早い
南 部	少ない	やや多い	やや少ない	やや良	8. 10	8. 18	8. 27	2日早い	3日早い
普 通 栽 培	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	8. 22	9. 9	10. 10	1日早い	1日早い
北 部	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	8. 22	9. 9	10. 10	1日早い	1日早い
南 部	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み	8. 22	9. 8	9. 24	平年並み	1日遅い

注：1 本表の「穂数」「1穂当たりもみ数」「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、「統計表の見方(P12)」を参照して下さい。

2 刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

2 被害概況

平成25年産水稻の被害量は 6,310 t となりました。

被害種類別にみると、病害（いもち病、紋枯病等）が被害量の44%を占め、次いで気象被害（低温障害等）が44%、虫害（ウンカ、カメムシ等）が10%、その他（鳥獣害等）が2%となりました。

表4 被害面積及び被害量

区 分	被 害 面 積	被 害 量	
		実 数	構 成 比
被 害 総 数	ha 46,500	t 6,310	% 100
気 象 被 害	12,700	2,740	44
病 害	19,700	2,780	44
虫 害	12,300	640	10
そ の 他	1,780	150	2

注：1 被害面積は、被害種類別の延べ面積です。

2 被害総数と内訳の計が合わないのは四捨五入（P12参照）のためです。

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の検証のための資料
- ・ 「農業災害補償法」（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料 等

◎ 徳島県計の累年データ

水稻の年次別推移

区 分	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	10a当たり 平年収量 kg	作況指数	収 穫 量 (子実用) t	(参 考)	
						主 食 用 作 付 面 積 ha	収 穫 量 (主食用) t
昭和58年産	17,500	442	410	108	77,400	…	…
59	17,700	457	414	110	80,900	…	…
60	18,000	464	418	111	83,500	…	…
61	17,700	448	424	106	79,300	…	…
62	16,700	443	427	104	74,000	…	…
63	16,400	447	432	103	73,300	…	…
平成元	16,400	441	436	101	72,300	…	…
2	16,400	434	441	98	71,200	…	…
3	16,300	436	445	98	71,100	…	…
4	16,700	425	445	96	71,000	…	…
5	16,800	388	445	87	65,200	…	…
6	17,200	504	445	113	86,700	…	…
7	16,800	484	445	109	81,300	…	…
8	16,200	472	447	106	76,500	…	…
9	15,800	449	453	99	70,900	…	…
10	15,300	452	455	99	69,200	…	…
11	15,100	464	462	100	70,100	…	…
12	14,900	476	468	102	70,900	…	…
13	14,500	471	468	101	68,300	…	…
14	14,300	476	472	101	68,100	…	…
15	14,100	453	472	96	63,900	…	…
16	14,100	463	472	98	65,300	…	…
17	14,100	487	474	103	68,700	…	…
18	14,100	457	474	96	64,400	…	…
19	14,000	475	474	100	66,500	…	…
20	13,900	504	474	106	70,100	13,900	70,100
21	13,700	471	474	99	64,500	13,700	64,500
22	13,500	471	474	99	63,600	13,500	63,600
23	13,200	463	474	98	61,100	13,200	61,100
24	13,200	477	474	101	63,000	13,100	62,500
25	13,400	487	474	103	65,300	13,100	63,800

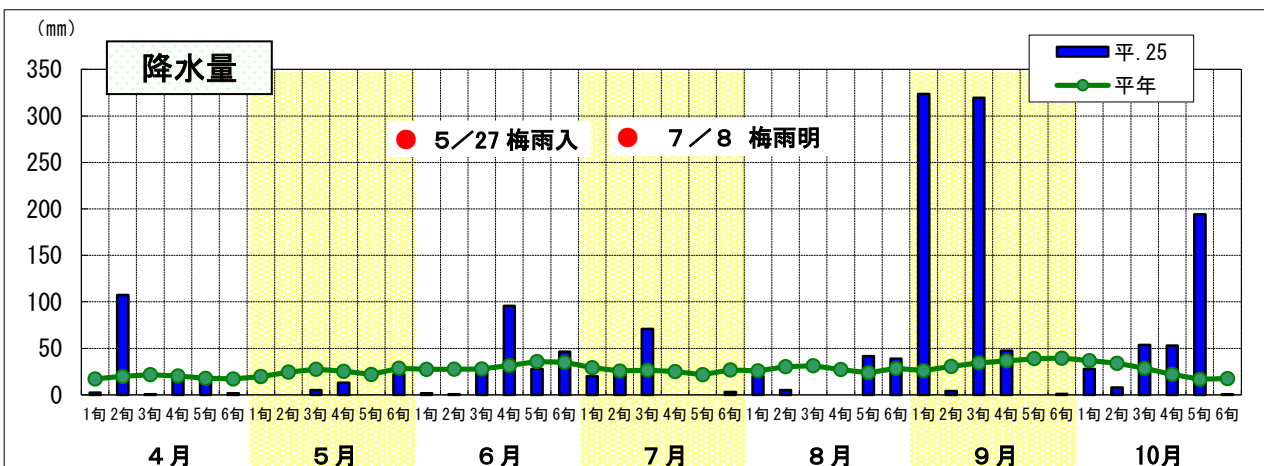
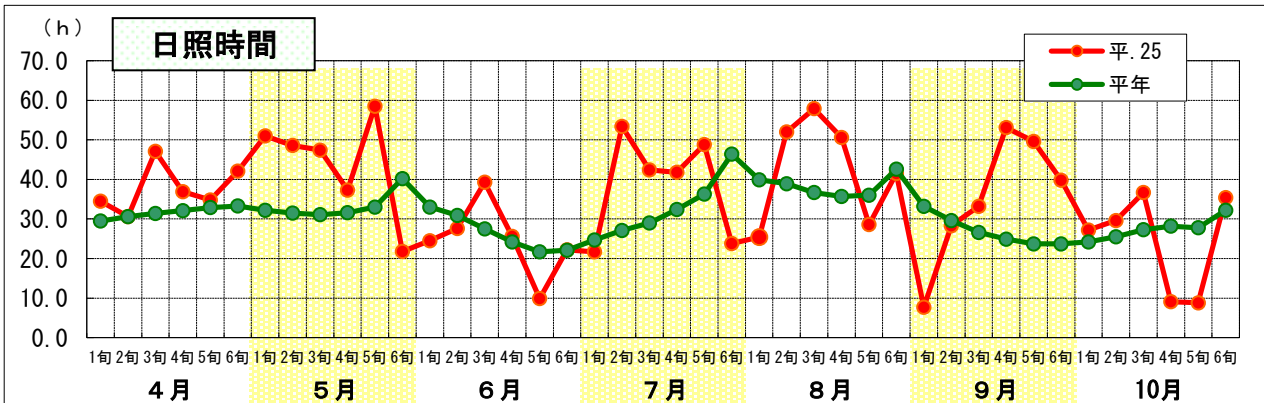
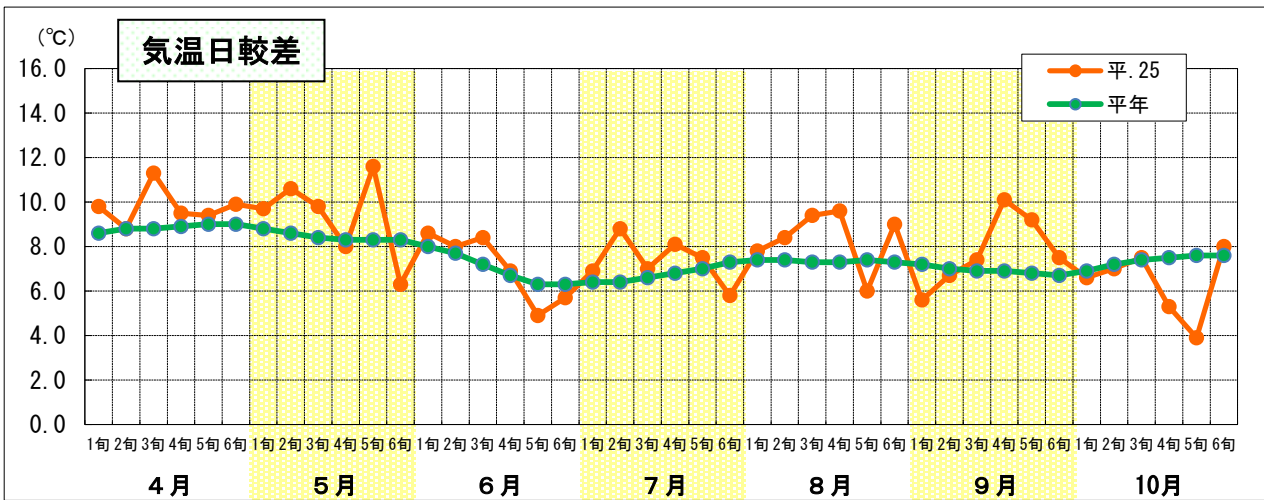
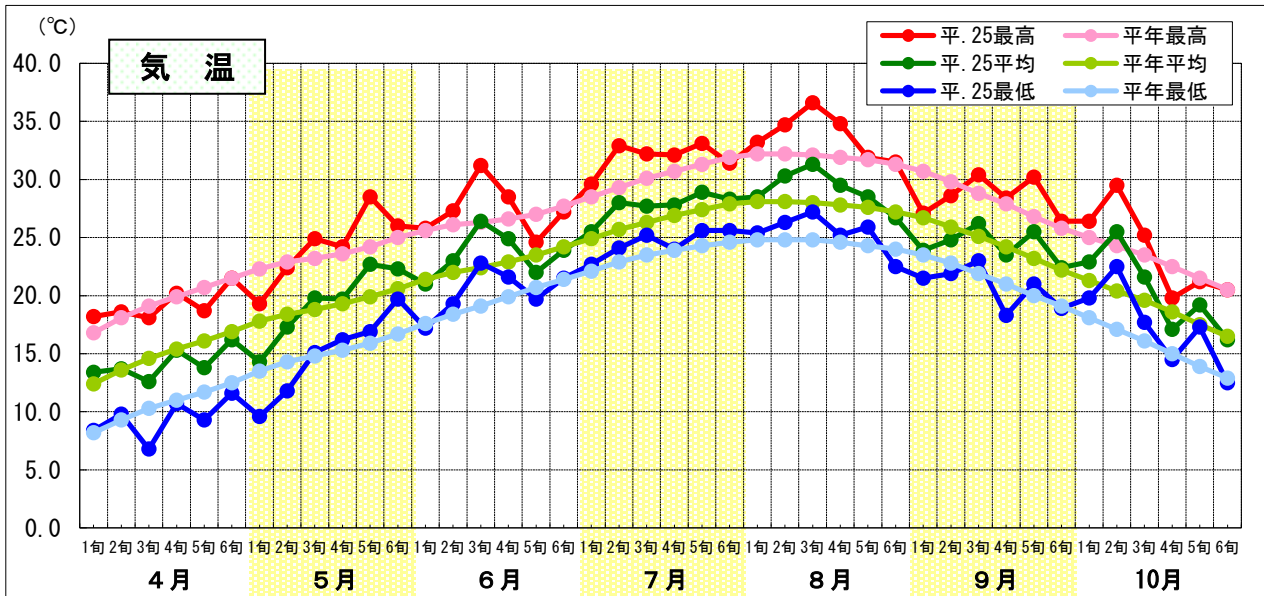
注：「…」は事実不詳又は調査を欠くものです。

◎ 早期栽培累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況指数	収穫量 (子実用)
	ha	kg	kg		t
平成15年産	5,160	447	468	96	23,100
16	5,170	460	465	99	23,800
17	5,290	480	463	104	25,400
18	5,290	440	463	95	23,300
19	5,260	445	463	96	23,400
20	5,350	488	463	105	26,100
21	5,330	458	463	99	24,400
22	5,190	453	463	98	23,500
23	5,080	449	463	97	22,800
24	5,100	464	463	100	23,700
25	5,290	468	463	101	24,800

◎ 普通栽培累年データ

区 分	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	10 a 当たり 平年収量	作況指数	収穫量 (子実用)
	ha	kg	kg		t
平成15年産	8,910	458	475	96	40,800
16	8,940	464	477	97	41,500
17	8,790	491	480	102	43,200
18	8,780	467	480	97	41,000
19	8,710	493	480	103	42,900
20	8,520	514	480	107	43,800
21	8,410	479	480	100	40,300
22	8,290	482	480	100	40,000
23	8,140	472	480	98	38,400
24	8,120	485	480	101	39,400
25	8,130	499	480	104	40,600



【参考1】

平成25年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量（子実用）及び10a当たり収量

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（P9【参考2】参照）。

農家等が販売するために選別に使用しているふるい目幅は、産地、品種等により異なるため、刈取りを行った試料で、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量を示すと次のとおりです。

1 徳島県計のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成20年産	100.0	1.0	1.5	2.2	2.3	9.5	83.5
21	100.0	1.2	1.9	2.8	3.5	17.3	73.3
22	100.0	0.8	1.2	1.7	3.2	10.7	82.4
23	100.0	1.2	1.9	2.5	3.2	15.2	76.0
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.5	11.2	82.1
25	100.0	1.2	1.7	2.6	2.8	14.5	77.2
平均差	(ポイント)	0.2	0.2	0.5	△ 0.1	1.8	△ 2.6

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。（以下の各表において同じ。）

2 未熟粒、被害粒等の混入が多く農産物規格規定に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。（以下の各表において同じ。）

2 徳島県計のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

区 分		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm
		選 別	選 別	選 別	選 別	選 別	選 別
平成20年産	10a 当たり収量 (kg)	504	499	491	480	469	421
21	10a 当たり収量 (kg)	471	465	456	443	427	345
22	10a 当たり収量 (kg)	471	467	462	454	439	388
23	10a 当たり収量 (kg)	463	457	449	437	422	352
24	10a 当たり収量 (kg)	477	473	466	457	445	392
	収 穫 量 (t)	63,000	62,400	61,600	60,400	58,800	51,700
25	10a 当たり収量 (kg)	487	481	473	460	447	376
	収 穫 量 (t)	65,300	64,500	63,400	61,700	59,900	50,400

注：1 ふるい目幅別の収穫量とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。（以下の各表において同じ。）

2 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a 当たり収量のことです。

3 ふるい目幅別の収穫量については、平成24年産より集計・公表を行っています。

3 早期栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成20年産	100.0	0.8	1.0	1.4	1.5	6.5	88.8
21	100.0	1.1	1.7	2.5	3.1	16.9	74.7
22	100.0	0.9	1.2	1.6	2.0	10.3	84.0
23	100.0	1.1	1.7	2.2	3.1	15.4	76.5
24	100.0	0.8	1.3	1.8	2.4	11.7	82.0
25	100.0	1.0	1.2	2.0	2.2	12.4	81.2
平均差	(ポイント)	0.1	△ 0.2	0.1	△ 0.2	0.2	0.0

4 早期栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 産		1.70mm 選 別	1.75mm 選 別	1.80mm 選 別	1.85mm 選 別	1.90mm 選 別	2.00mm 選 別
平成20年産	10 a 当たり収量 (kg)	488	484	479	472	465	433
21	10 a 当たり収量 (kg)	458	453	445	434	420	342
22	10 a 当たり収量 (kg)	453	449	443	436	427	381
23	10 a 当たり収量 (kg)	449	444	436	427	413	343
24	10 a 当たり収量 (kg)	464	460	454	446	435	380
	収 穫 量 (t)	23,700	23,500	23,200	22,800	22,200	19,400
25	10 a 当たり収量 (kg)	468	463	458	448	438	380
	収 穫 量 (t)	24,800	24,600	24,300	23,800	23,200	20,100

5 普通栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成20年産	100.0	1.1	1.8	2.6	2.8	14.5	77.2
21	100.0	1.2	2.1	3.1	3.8	17.6	72.2
22	100.0	0.7	1.2	1.7	4.0	11.0	81.4
23	100.0	1.2	2.1	2.7	3.3	15.3	75.4
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.6	10.9	82.3
25	100.0	1.4	2.0	3.0	3.2	15.8	74.6
平均差	(ポイント)	0.4	0.3	0.6	△ 0.1	1.9	△ 3.1

6 普通栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 産		1.70mm 選 別	1.75mm 選 別	1.80mm 選 別	1.85mm 選 別	1.90mm 選 別	2.00mm 選 別
平成20年産	10 a 当たり収量 (kg)	514	508	499	486	471	397
21	10 a 当たり収量 (kg)	479	473	463	448	430	346
22	10 a 当たり収量 (kg)	482	479	473	465	445	392
23	10 a 当たり収量 (kg)	472	466	456	444	428	356
24	10 a 当たり収量 (kg)	485	481	474	465	452	399
	収 穫 量 (t)	39,400	39,000	38,500	37,700	36,700	32,400
25	10 a 当たり収量 (kg)	499	492	482	467	451	372
	収 穫 量 (t)	40,600	40,000	39,200	38,000	36,700	30,300

7 農家等が選別に使用したふるい目幅の分布

【平成25年産水稻作況標本（基準）筆農家からの聞き取り結果】

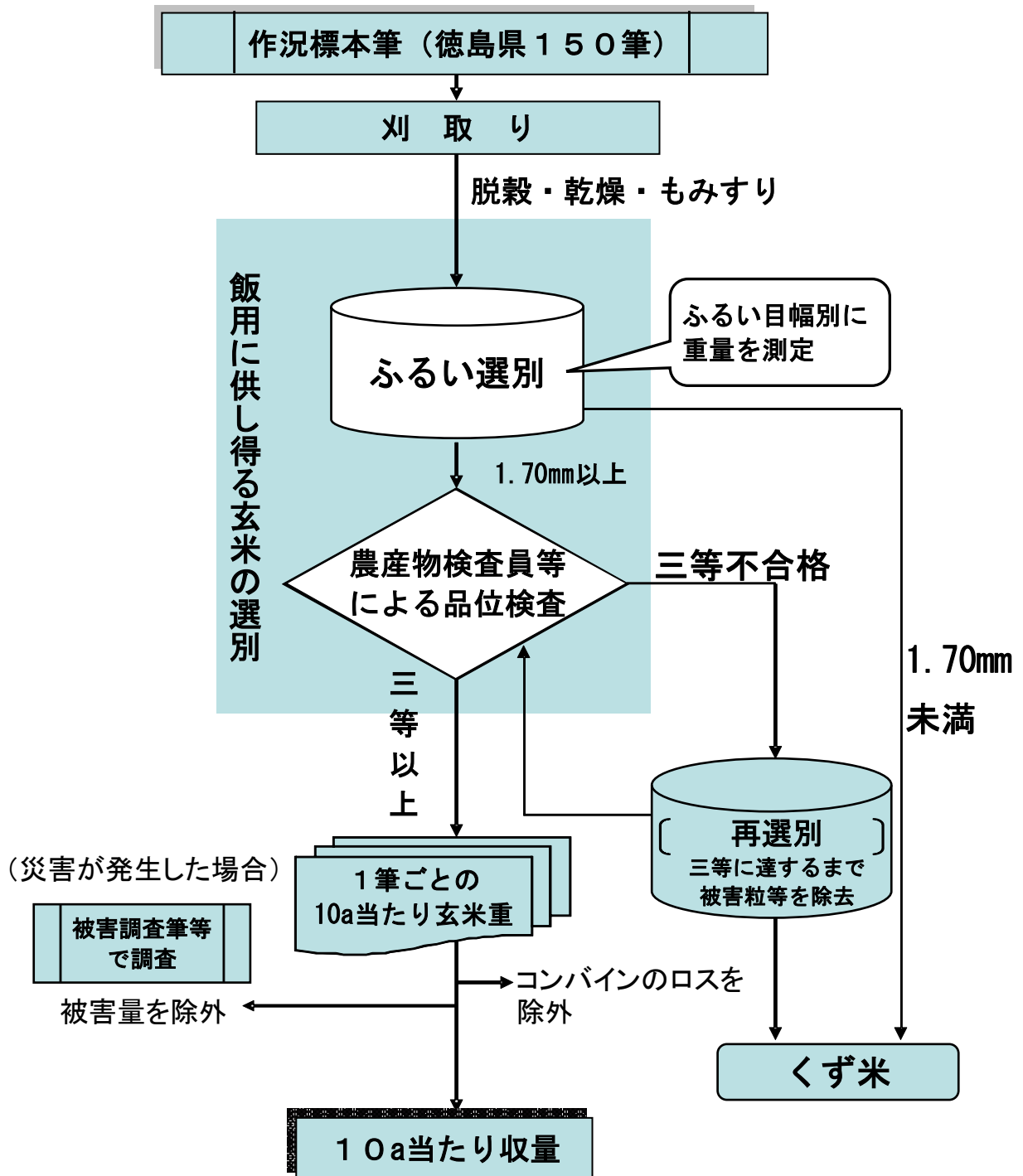
単位：％

区 分	合計	2.00mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
徳 島 県	100.0	—	—	2.6	89.7	7.1	0.6

注： この表は水稻作況標本（基準）筆農家が選別に使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものです。

【参考2】 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（P10【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規定に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



【参考3】

ふで
作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼びます。）は、徳島県の水稲の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように選定（徳島県は150筆）しています。

徳島県内の全ての土地
(母集団)



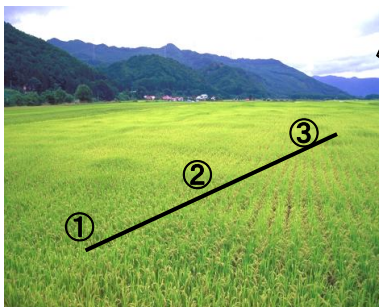
- ① 徳島県の全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいきます。

標本単位区
(200m四方の土地)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(徳島県は150筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3カ所（①、②、③）を実測調査箇所として、サンプル採取（坪刈り）を行っています。

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の区分

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町

南部：阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町



3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：507単位区 巡回・見積り：24市町村

(2) 収穫量調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：6筆 巡回・見積り：24市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、登熟状況、10a当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種条件等

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する統計調査員及び職員による実測調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行いました。

(2) 収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計の方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果を基に、巡回・見積り結果及び情報収集結果により補完し取りまとめました。

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより補完し取りまとめました。

8 用語の解説

(1) 10a当たり平年収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

(2) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすいき）となることを回避する等から、おおむね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法です。

(3) 穂数

単位面積当たりに出穂した全ての穂の数です。収量決定に当たって重要な要素の一つです。

(4) 全もみ数

単位面積当たりの全てのもみの数のことです。収量決定に当たって極めて重要な要素です。

(5) 登熟

開花、受精した後、実が肥大し熟れていくことです。生育条件や気象条件、病害虫などの影響を受けます。

(6) 青刈り用等

子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

統計表の見方

- 1 表中で用いた表示区分は、過年次の作況標本筆結果から作成した各指標の平年値に対する比率を次のとおり区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	やや少ない (やや不良)	平 年 並 み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- 2 表中の統計数値については、下記の方法によって四捨五入しています。

原 数		5 桁 (10,000)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁	1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	12,300	1,230	123

～この農林水産統計に関するお問い合わせはこちらへ～

中国四国農政局徳島地域センター

農政推進グループ 総括農政情報官（生産流通消費統計担当）

Tel : 088-625-6990（内線351） Fax : 088-654-1383



この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページでご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/>



平成25年11月1日現在で、2013年漁業センサスを実施しています。

（流通加工調査については平成26年1月1日現在）

調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。

漁業センサスホームページURL : <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc>